

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1回/2ヶ月の施設会議で理念の確認、復唱を行い、理念の浸透を図るとともに、利用者全員のADL状態、介護方法の検討、情報伝達・共有の場や、事故の振り返り、身体拘束等確認、意見交換の場を設けている。食堂、休憩室、事務所に理念を貼りだしている。	開所前に法人本体と開設に携わった方で理念を作り上げた。一人ひとりの人格尊重を大切に、利用者の意思確認の場として利用者の自治会を設けた。和やかな雰囲気・傾聴を意識して理念の実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の草刈りや、農業用水清掃などに参加している。また、地域の祭りである「稲の虫送り」も花みずき駐車場まで来て頂いている。毎月地域に便りを発行し、事業所の活動を見ていただいたり、不要な衣類等募ったり、ボランティアの協力を呼び掛けている。2回/年のお祭りを開催し、地域の方や児童を招いている。	毎月、花みずき便りを発行し、地区の全世帯に配布し近隣地区には回覧している。また、地域の行事に参加したり、納涼祭・収穫祭を開催して地域の方を招き、交流を図っている。自治会長の計らいで、地域祭りの稲の虫送りの行列が駐車場まで来て、利用者も大変喜んでた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成23年12月4日に家族介護支援事業で「ほっと和んで心にゆとりがほしいよね」と題し、認知症ケアのポイントアドバイス等講義や在宅介護での悩み相談等行った。平成24年2月10日には荒沢小学校に認知症サポーター養成講座講師派遣を行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況や、活動状況を資料やプロジェクトで報告したり、研修や評価への取り組みを説明している。意見や改善など出た場合は取り組みを行い、次の会議で報告している。	併設事業所と合同で定期的に開催している。活動状況・登録状況・取り組み報告等、事前に議事録を配布している。意見交換ができるような雰囲気づくりを大切にしており、様々な意見が上がっている。地域の関わりについてアドバイスをもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議内で、市町村職員に活動状況を報告するとともに、災害時の対応方法やアクシデント対策などアドバイスをいただいている。毎月発行の便りを市役所下田サービスセンターに届け、活動内容を報告している。	ホーム便りを市役所の介護担当に直接届けている。地域の協力体制や事故防止のアドバイス等、受けている。市からの依頼で小学校の認知症サポーター講座に出向いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1回/2ヶ月の定期会議内で身体拘束にあてはまる事はないか、また、利用者が不穏状態とならないよういろいろな対応方法を会議内で検討したり、振り返りを行い確認している。つかのめの里の定期研修に参加し、理解を深める機会を設けている。	ドアにセンサーをつけて危険回避することで、施錠はしない等身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施設会議では、ケアを振り返り言葉の抑制等、利用者の抑圧感を招いていないか確認し、定期的に学ぶ機会を設け周知徹底している。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回/2ヶ月の定期会議内で虐待にあてはまる事はないか、振り返りを行い確認している。つかのめの里の定期研修に参加し、理解を深める機会を設けている。	法人研修・ホーム内研修で学ぶ機会を設けている。特に、言葉づかいには全職員で注意を払っている。職員がストレスをためないように、一人の職員に負担がかからないようにフォローしあい、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるケースがあれば、家族へ働きかけ、市役所と連携し、実施に向けて取り組む。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書、利用料等家族の前で読み上げ、十分に説明を行っている。改定時等、文書による周知と電話連絡で説明を行っている。解約時は再契約の可能性、他施設利用時の情報提供、相談援助等対応を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の自治会を作り、1回/月に利用者と職員の話し合いの場を設けている。利用者からの声や訴え等可能な限り実践に取り組んでいる。決定事項等あれば、連絡ノートで申し送り全職員への周知を図っている。ご利用者からの希望等についての取り組みなど、運営推進会議内で報告している。今後、ご家族に対してアンケート調査を行っていく。	面会時や電話等で情報提供した際に、意見や要望が聞けるよう話しやすい雰囲気づくりに努め、積極的に聞くようにしているが、あまり上がってこない。家族アンケートを作成中であり、アンケート実施を課題としている。	利用者・家族は意見や要望、不満を言い出し難いということを理解し、言うことをためらう家族の心情を察知し、より多くの意見や要望を出してもらえるようなアンケートを作成し、実施することが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に意見等言い易い環境作りに努めており、定期会議では職員の意見等聞く機会を設け、可能な範囲で業務に反映させている。	施設会議等で全職員が発言するようにしている。ケアや行事について、様々な意見が上がる。排便で自然排泄ができるようオリゴ糖を取り入れたり、運動したい利用者のために、リカンベントバイクを取り入れる等、ケアに反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として正職員への登用制度、資格手当支給制度がある。また、資格取得の場合は、それを活かせる業務体制がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修への参加、バックアップ施設の研修参加、外部研修への参加等積極的に勧めている。また、法人としてスクーリング参加時の特別休暇制度がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に出かける折を利用し、同業者との交流の機会をもってもらっている。また、他施設の行事へも積極的に参加し、訪問時を利用し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、ご本人・ご家族の意向を聴き、独自のアセスメントからケアプランを作成している。日々の業務の中でも不安・要望を聴き、ご本人が安心して利用できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時でご家族の意向を伺うとともに、日々の面会の中でも不安なこと・要望を聴き、今後についての相談を宇受けるなど対応・検討することで安心していただける関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要としている支援が何かを把握し、対応が難しい場合は、提供できるサービス内容を説明し、必要なサービスを一緒に検討している。また、他サービス機関の情報も随時提供している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の意見等を受け止める姿勢を大切に、傾聴や寄り添った介護を常に意識している。日々の作業などは自発的に行って頂けるよう配慮し、ご本人の得意な事などを引き出して行けるような支援を行っている。人生の先輩であることを常に意識し、知識や技術を披露する機会を設けている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設でのご利用者の様子や思いを、職員を通してご家族に伝え、ご利用者、ご家族、職員が一つの輪となって支え合うと言う意識を常に持てるよう協力の依頼や、協力体制の確保に努めている。忘年会に家族参加を呼び掛け、交流を図りつつ、共に支え合うと言う意識を持つ機会を設けた。	状況を定期的に報告したり不足物品の依頼や不穏状態時に家族の力を借りる等、本人と家族が関われる場面を作ることで、共に支えていく関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の催しや地域行事に参加して、地域の方と交流の機会を設けている。毎月発行の便りを地域に配布したり、回覧を回したり、公民館に置いて頂き、ご利用者の様子やボランティアの募集など地域の方に知って頂けるよう取り組んでいる。面会等随時受け付けている。	兄弟・姉妹、昔の職場の方が遊びに来てくれたり、家族が友人を連れてきたこともある。自宅周辺へのドライブ・散歩等、利用者の思いに沿って外出している。馴染みの図書館・スーパーに出かけており、関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員が把握し、ご利用者同士の関係がうまくいくよう職員がクッション役となり調整している。また、体調や感情等でご利用者の言動にも変化がある為、日々注意深く見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、相談等必要な時はいつでも連絡を頂けるよう伝えている。必要なら病院や他施設への情報提供や情報交換を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの想いを引き出せるように関わり、ご本人の望む生活スタイルを提供できるよう心がけている。また、定期的に担当スタッフを交えてカンファレンスを行いご本人の望む生活スタイルに近づけるよう検討している。	利用者と一緒に時間をもち、話を聞くことで意向の把握に努め、新しく知り得たことはミーティングや連絡ノートに記入し情報共有している。会議では毎回全利用者についてカンファレンスを行い、本人の思いに沿って生活できているか、困ったことはないか話し合い確認している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネージャー等関わりのある方から、フェイスシートを活用して積極的に情報を頂けるように努めている。家族とこまめに電話連絡をとるなど、連携を密に保ち、情報の収集、提供、把握に努めている。	生花などの趣味・好きだった映画や歌など、個々の利用者について昔の記憶を思い出せるアイテムを把握することに努め、サービスに取り入れることで、これまでの暮らしが継続できるよう支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご利用者個々の状態を各職員が把握し、気付いた点など業務日誌や全体連絡ノートにて速やかに申し送り、情報の共有と統一した介護に努めている。いろいろな軽作業など声かけ、できることを見いだし、継続して提供していく。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活での状態や課題等を職員が把握し、ご本人やご家族から、生活を送る上での要望や意向をお聞きした上でアセスメント・モニタリングを行いケアプラン作成している。	困っていることを医学的アプローチ、環境改善アプローチの両側面から整理し、本人の気持ちを最優先にアセスメントしていく独自のシートを用い、計画を立案している。モニタリングは3ヶ月に1回本人も交えて担当職員や計画作成担当者等で行い計画を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々のご本人の様子やレクリエーション行事、外出行事等の活動の記録を記し、連絡ノートには職員の気付きやご利用者の対応方法を書き込み、情報の共有を図るとともにモニタリングやケアプランの見直しへつなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて受診の送迎、同行など柔軟に対応している。健康面でも必要なら書類を作成し、家族を通してかかりつけ医に相談するなど連携をとりながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に出かけ、趣味活動の参考となる書物を借りている。踊りやハーモニカ等ボランティアの方から定期的に来ていただき、楽しみの時間を設けている。地域の小学校の運動会に見学に出かけた。天候のよい時は散歩に出かけ、近所の住民と挨拶を交わしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本としてかかりつけ医に受診することとしている。必要時はかかりつけ医にご利用者の状態や施設での様子を経過をおって記入、受診の際の参考にももらっている。また、必要なら状態説明のため、同行受診も行っている。家族状況など考慮して往診も依頼している。	家族が同行し、かかりつけ医に受診している。受診時家族に文書や口頭でホームでの様子を情報提供しているが、必要があれば職員が同行し直接医師に状態を伝えている。又受診が困難な方など希望があれば往診可能な近医を紹介している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の日頃からの体調管理や状態の変化に注意し、必要なら小規模の看護と情報を共有し、話し合いを行ったりアドバイスをもらう事で、適切な支援を行えるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、毎月発行の便りをご利用者に届け、病院に看護師から情報を聞き、状態把握に努めている。退院時等にも病院へ出向き、関係者と情報交換を行ったり、必要なら家族・病院関係者とのカンファレンスも実施する体制がある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化には、可能な限り対応できるような援助している。終末期に関しては指針を作成している。重度のご利用者があれば、ご本人とご家族、主治医の方針や意向の確認を行うとともに、体調変化時等随時速やかに受診や対応ができるよう支援していく。	重度の方の二人介助での入浴など、できる限りの対応はしているが、経口摂取が不可能になったり医療依存度が高くなる場合対応することは難しいと考えており、契約時家族に説明している。また、段階に応じて意向を確認し、バックアップ施設とも連携を図り支援している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員を対象に急変時の対応方法や連絡方法について研修を行っている。初期対応、連絡体制などマニュアルを作成し、日頃確認できる場所に設置してある。	急変時のフローチャートを夜間・日中・一人の時の場面別に作成し、電話横に設置して活用している。又蘇生法や誤嚥時の異物除去など応急手当の訓練を行ない急変に備えている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/年の緊急連絡網訓練、2回/年の避難訓練を実施している。マニュアル内で日中・夜間想定避難方法フローチャートを作成してある。火災時は消防署からの連絡で消防団から避難補助を受ける体制となっている。事業所からの連絡で、自治会長と近隣住民やセコムから避難補助を受ける体制となっている。	1階のライフケア花みずきと合同で年2回昼夜想定で実施している。ホームは2階にあるが避難用滑り台が設置されており、迅速に駐車場に避難することが可能である。自治会長を通して地域住民に避難後の見守りをお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ個々のご利用者に対して、尊敬の念を持ち、普段の言葉遣い、声かけ、傾聴する態度に配慮している。ご利用者に寄り添い、その人を深く知る事によってプライバシー・プライドを傷つけないよう配慮している。	職員は利用者の個性をよく理解しており、本人の気持ちを大切に、丁寧で心のこもった言葉かけをしている。会議で接遇について話し合い、プライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話の中や1回/月の自治会の中で、ご本人が口にした希望や関心ごとなどをとりあげ、可能な範囲で実践につなげている。入浴時など着替えはご自分で衣類を選択していただき、着替えて頂いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課となっている体操等の他にも、個々のご利用者のニーズを把握し、散歩などの付き添い、思いおもしろい趣味活動支援、レクリエーション活動を行えるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方については、事前に声をかけて頂き、床屋に散髪の予約をとる事で、事業所に出張して頂き、散髪、髭そりを行ってもらっている。身だしなみについてはご本人ができる方にはご自分で行ってもらう他、お化粧品セットを用紙し、楽しみながら気分転換を図っている。また、衣類など自己決定が難しい方は、会話を通して時節に応じた身だしなみを考慮するなど本人の希望に沿った支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に調理の手伝い、盛り付け、後片付けなど行っている。定期的に個々の好みのメニューで出前をとり、楽しみのある食事となっている。	献立は職員が作成し家庭菜園の旬の野菜などを取り入れた和食中心のバランスの良い食事となっている。買い物、調理、片付けは一緒に行い、又何が食べたいか希望を聞き出前をとったり、おやつを手作りするなど食事を楽しむ工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1回/月に体重測定を行い、管理しつつ食事量等考慮している。食事量低下等みられるご利用者には別食材を用いたり、医師から栄養剤を処方してもらったり、嚥下障害のあるご利用者には水分トロミ等対応も行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきやうがい、舌帯ブラシ、デンタルリンス、口腔清拭等その方に合った口腔ケアを行い、必要であれば介助を行っている。職員全員で口腔ケアに携わるよう心がけ、一人ひとりの口腔内状態の把握や清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙オムツ使用の方も日中ポータブルトイレでの排泄に心がけている。食事の前後にも声かけ、トイレ誘導を行っている。希望時以外も表情や仕草からトイレ誘導を行っている。	身体機能を維持するための援助を行い、なるべくトイレで排泄することを大切にしている。個々の尿意のサインを把握し、小声でさりげなく誘導している。又紙パンツ類の使用については本人に合わせ家族とも相談しながら選択している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を元に、排便周期を確認し、排便のリズムや量・状態のチェックを行っている。自然な排泄を目指し、水分多めの対応や、朝・昼食時のオリゴ糖摂取、水分に乳製品を取り入れている。また、散歩など適度な運動の機会も取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングに沿った入浴方法でゆっくりと湯船につかっていただくよう努めている。入浴中はゆっくりお話を聞いたり音楽を流したり、毎月1週間程度入浴剤を使用したかわり湯に入浴していただくなど、楽しみのある入浴時間となっている。	浴室は、二人介助できる造りになっている。必要があれば機械浴(坐位浴)の使用も可能であり、重度な方にも対応している。ゆっくり入浴してもらうことに心がけ、拒否される方には時間や日を変えて誘い週2回は入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を把握したうえでレクリエーションや外出を活用し、休息のリズムがとれるようにしている。眠れない時などはお茶やホットミルクを提供し、お話をするなど寄り添った支援を、落ち着かれるまで行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬剤説明書はご利用者個々の薬保管ケースに入れてあり、薬をセットする際のチャック付き収納バックにも薬剤名、効能等記載して。ご本人が内服するまでに3度のチェックがあり、安全な与薬に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備を始め、洗い物やたみ物等、ご利用者の経験や能力を活かし行っていたり機会を設けている。一人ひとり楽しみや張り合いのある生活の場を提供できるよう個々の趣味に合った散歩や生け花、畑作業、DVD観賞等の参加や季節に合った行事や外出も支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に応じ、買い物同行、代行支援をしている。また、事業所の物品購入の際もご利用者に声をかけ、希望があれば買い物同行の支援をしている。天候に応じて全ご利用者を対象としたドライブや、地域行事見学等も行い、気分転換を図っている。	日常的に買い物や散歩など希望に応じて外出している。又利用者に行きたいところの希望を聞いたり、季節に応じて村松の桜の花見や加茂川のこいのぼり見学・弥彦の菊祭りに出かけるなど、積極的に外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方は財布を所持されており、買い物時に職員が支援している。自己管理が困難なご利用者であっても、ご家族よりお金を預かり、金庫に保管して外出の際に利用してもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話連絡や取り次ぎなど支援を行っている。お正月には年賀状を直筆にて書いて頂き家族宛に出す支援を行った。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と職員による手作りの絵や習字など、季節に応じた壁飾りを作成、展示している。2回/月生け花を行い玄関やテーブルに飾っている。排煙窓にフィルムを貼り、太陽光の調節を行うとともに、温度上昇予防に努めた。ウイルス除菌空気清浄機や加湿器を設置し、適度な湿度の確保や、感染予防に努めた。	大きな窓からは田畑が見渡せ明るく解放的な空間である。壁紙や建具は濃い目の色で統一し落ち着いた雰囲気になるよう配慮している。季節感のある手作りの装飾や生花が随所に飾られ、又テーブルやソファの位置を臨機応変に変更することで居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファやテレビが設置しており、また、テーブル配置も好みに合わせ、ご利用者個々の好む場所で気の合う者同士で過ごしていただけるよう配慮している。畳スペースには座イスも設置しており、気軽に休んでいただけるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の普段の生活スタイルに近い環境を整えるよう配慮している。日常的に使用していた寝具や家財道具など持参して頂き好みの配置をとったり、契約時にご本人の落ち着いたものがあれば持参して頂くようご本人やご家族に説明している。	使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、家族に部屋作りを手伝ってもらうことで、家に居た時と同じような環境で落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を立体的に示したり、居室には表札を付け確認できるようにしている。歩行器や杖歩行の方が安全かつ支障のないよう自力移動できるようスペースを確保し、見守りをしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない